

8.3 「4.公共交通の現状等」からみた地域公共交通の役割と課題

8.3.1 地域交通流動状況からみた地域公共交通の役割と課題

成田市を取り巻く交通流動の現状から、地域公共交通が果たす役割と課題について検討した。

分野	現状等	地域公共交通の役割・課題
交通需要全体 (発生集中交通量)	<ul style="list-style-type: none"> ・市中心部やニュータウンでは交通需要が一貫して大きく増加。また、郊外部の豊住・中郷・久住・遠山地区でも増加基調にある。 ・一方、大栄地域・下総地域では減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧成田市においては交通需要増に対応した地域公共交通の供給の強化やサービス向上が求められる。 ・大栄地域・下総地域では、今後、人口減少が予想されていることもあり、地域公共交通の維持が課題である。
交通機関分担	<ul style="list-style-type: none"> ・旧成田市では鉄道利用も一定程度存在するが、全体的に自動車利用割合が高く、特に、大栄地域・下総地域では自動車利用が大半である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車利用が中心となっている成田市の交通現状に対し、公共交通の充実・強化を図ることで、自動車からの利用転換を促し、道路混雑や環境改善を目指すことが求められる。
地域間交通流動 (地域間OD)	<ul style="list-style-type: none"> ・成田市は、空港及び空港周辺に立地する企業への通勤などの交通流動が多い。それらは鉄道沿線地域だけでなく、香取市や多古町など周辺地域から満遍なく来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全方位からの交通流動に対し、鉄道だけでなくバス交通の充実・強化を図っていくことが必要である。

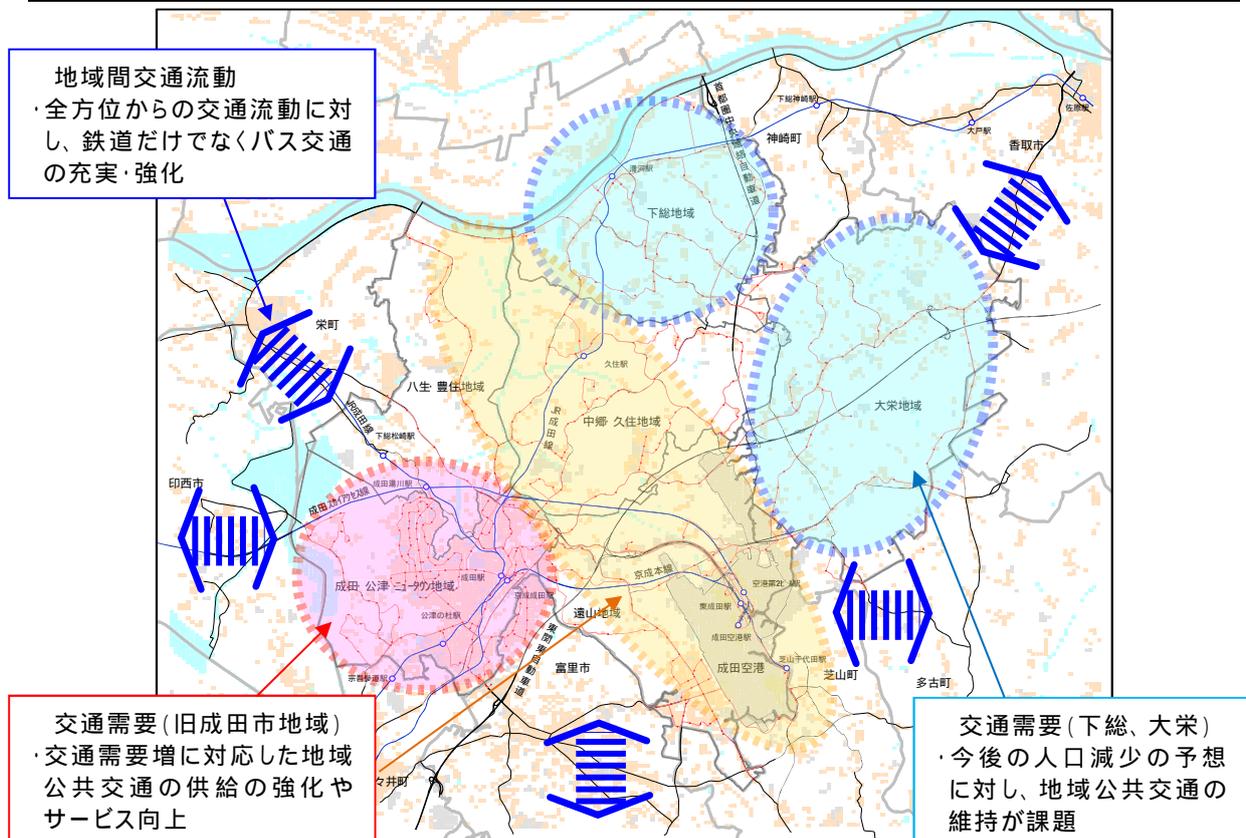


図 196 地域交通流動状況から見た地域公共交通の課題

8.3.2 公共交通の整備・サービス・利用状況および公共交通事業者ヒアリングからみた地域公共交通の役割と課題

公共交通整備状況、サービス・利用状況から、成田市の地域公共交通の課題を検討した。

(1) 客観的指標に基づく整理

鉄道関連

分野	現状等	地域公共交通の役割・課題
鉄道の整備状況	・郊外部、特に大栄地域では駅から遠い鉄道空白地域が広がっている。	・鉄道は市中心部と空港や東京方面を高い走行性で連絡する基幹的な交通軸と位置づけられ今後ともその強化が必要 ・鉄道空白地域が広がる郊外部では、鉄道とバスとの連携強化、最低限の移動の足の確保が必要
交通結節点 (乗継ぎのバリアフリー化)	・利用の少ない駅を除き、改札口～ホーム間、ホーム相互の車いす移動が可能	・利用の少ない駅におけるバリアフリー化について、今後、方針の検討が必要
運行サービス状況	・成田線の成田以北区間は沿線人口が少ないため、運行本数も少ない。	・運行サービスレベル向上の動機づけとなるような利用の喚起が必要
鉄道利用状況	・成田駅は微増、空港関連と公津の杜駅は増加、下総松崎駅と滑河駅は横ばい	・航空需要増を背景とした利用者数の増加に対応し、初めての人にも使いやすい駅を目指していくことが必要
二次交通 (鉄道駅アクセス)	・成田駅はバスアクセス割合が高い ・公津の杜駅は徒歩・自転車でのアクセスが大半である。 ・久住駅、滑河駅、下総松崎駅は徒歩割合が想定的に低く、広範な駅勢圏を有しているとみられる。	・両成田駅のバスアクセスの充実・強化が重要 ・公津の杜駅は歩行環境・自転車走行環境の向上が重要 ・久住駅、滑河駅、下総松崎駅は、駐車場・駐輪場整備に係る施策が重要

